

1. 評価結果概要表

作成日 2008年1月28日

【評価実施概要】

事業所番号	4070501541		
法人名	医療法人社団天翠会		
事業所名	グループホーム みどり		
所在地 (電話番号)	北九州市小倉南区上吉田三丁目 - 16 - 1 (電話) 093 - 471 - 3711		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成20年1月18日	評価確定日	平成20年2月5日

【情報提供票より】(2007年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	18 人	
職員数	16 人	常勤10人	非常勤4人 常勤換算15人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	(新築) / 改築
建物構造	鉄骨 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,333 円	その他の経費(月額)	15,000円(光熱費)
敷金	200,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	月額	40,000円	

(4) 利用の概要 10月1日現在

利用者人数	18名	男性 4名	女性 14名
要介護1	3名	要介護2	4名
要介護3	5名	要介護4	4名
要介護5	2名	要支援2	0名
年齢	平均 84歳	最低 72歳	最高 86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松井病院 松尾病院 小野クリニック 三好歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に囲まれた広い敷地の中、サービスと併設した「グループホームみどり」である。地域の要請により開設されたグループホームのため、地域との連携が密で、地域の行事には積極的に参加し、交流を図っている。また、身体のケアだけでなく、心のケアチェック項目を作り、実践している。その延長線で家族の強い思いから看取りも体験している。家族の希望に応えていきたという管理者の熱意を職員が理解し、今後も家族や主治医との連携、協力の下、研修を重ねる質の向上を目指している。利用者、家族、地域住民に深く信頼されているグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は、終日玄関が施錠されている。地域と連携した災害訓練がなされていない2点であった。2点とも改善が行われている。に関しては職員が利用者の外出の様子を察知し対応することで玄関を開放するように改善している。については、地域の協力の下、地域の方の参加を得た災害訓練が実行されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員からの意見を聴き取り管理者が作成している。自己評価により今まで気づけなかったところが分かり改善に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、行政、民生委員、地域の農業委員、利用者、利用者家族の出席で、活発な意見が交わされている。議題はホームの現状報告、平成19年12月の第8回の運営推進会議では「看取り」について活発な討議がなされている。また推進会議での話し合いの結果、地域と共同災害訓練を行うなど、運営推進会議が有意義なものになっている。市町村との連携は推進会議への出席、ホームを市の研修会場として提供するなど連携が出来ている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法:運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族への報告は月に1回、ホーム便り、金銭管理の報告書と共に日頃の様子を報告している。家族の意見は、玄関に意見箱の設置、家族の訪問時に話し合うなど、努力がなされているが、余り意見や苦情が出ない。日頃から、気軽に苦情が言える関係作りが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は出来ている。町内会への加入、町内会議への参加、地域の行事や、清掃活動への参加、地域に開放された本格的な足湯を地域の方々を利用し、散歩時の会話など地域の中に溶け込んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に愛され地域の中でその人らしく暮らすことの支援を、理念の基本方針に謳っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、申し送り時に唱和している。また、事業所内に掲示し理念の理解、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域の清掃、老人会の会合に参加している。また、地域に開放された足湯に地域の方や近くの小学生が立ち寄ってくれたり、散歩の時に声をかけたりかけられたり、地域との交流は盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員に聞き取りをしたうえで管理者が作成している。外部評価の結果については会議に反映し具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回行われている。参加者は、地域の民生委員、地域の農業委員、行政職員、利用者、利用者家族などで、会議は、事業所からの報告と、に参加者から質問、意見が出され、双方向的な会議となっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの要請で、市民の研修の場として提供している。これまでに2回開催し、計40名の研修を受け入れた。気軽に相談できる体制である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業の該当者が2名、成年後見制度の利用者が1名いることから、職員の理解も進み支援に繋がっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りと金銭出納簿を家族に送り、利用者の暮らしぶりと共に報告している。</p>		
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱は置いているが家族の意見、不満、苦情はなかなか出ない。</p>	○	<p>今後は意見、不満、苦情などの出しやすい関係を作ることが望まれる。</p>
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は少ない。代わる場合も?ユニット全職員が全ての利用者を把握しているので、利用者へのダメージは少ない。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障</p>	<p>職員の採用は年齢、性別の制限は行っていない。事業所で働く職員の思いを尊重し生き生きと勤務できる環境と勤務ローテーションに配慮している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりくんでいる</p>	<p>市の人権研修を受け、伝達講習をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力に応じた研修会の参加の機会を設けている。</p>	○	<p>年間研修計画を立て、ローテーションの配慮など参加しやすい環境の整備が望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に所属し、Dグループで1ヶ月に1回の情報交換、学習会などの交流を通して、サービスの質の向上に繋げている。時には忘年会などで親睦を図っている。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居はしていないが、見学はいつでも受け付けている。見学でホーム内の雰囲気に馴染んでもらっての入居である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	お雛様を大豆で作ったり料理の味付けなど、利用者から学ぶことも多く、また、利用者が職員の肩を揉んだりする姿が見られ、共に過ごし支えあう関係を築いている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の心のケアに対する個別記録があり、記録を使って利用者の希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	朝の申し送り時や、職員が数名集まったときに、気付いたことなどを話し合い、月に1回のミーティングで情報を共有し、介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っているが、変化が生じた場合はその都度検討し、主治医、家族の意見を十分に聞き新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、病院の付き添い、墓参りなどを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医や家族と情報のやり取りをし、本人と家族の同意を得て、事業所の提携医の適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族から最後まで見て欲しいとの要望があり、かかりつけ医、家族の協力のもと、看取りを経験した。利用者の状態にもよるが今後もこの経験を活かし看取りの支援をしていきたい。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	目立たずさりげない言葉かけや対応が出来る様、気をつけている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間などでも、一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族の方の手作りのランチョンマットを敷いて、自家菜園で採れた野菜を使った料理を職員と一緒に配膳し、食事をする等、楽しみながら食事ができるように支援している。		
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回16時以降の入浴としているが、その時々利用者の希望に応じ入浴を楽しむこと出来る様支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳、生け花、日めくり、味付けなど、一人ひとりの力を活かした役割、楽しみごとの場面を作り、張り合いのある日々が送れるよう支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は利用者の希望にそって散歩、買い物に出かけたり、またいるんな場所へドライブに出かけたりして、できるだけ戸外で過ごすことができる様支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は利用者にさりげない見守りを徹底し、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と合同で火災避難訓練を行っている。また、地域の方にも参加してもらい避難訓練を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量をチェック表に記録し、職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の真ん中が吹き抜けのため全体的に明るい。ほかほかと日が差し込む廊下のベンチでは利用者が、楽しそうに話している姿が見られる。中庭にはテーブルとイスが置いてあり、天気の良い日はお茶を飲んだりしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には絵画が飾られ、落ち着いた雰囲気である。また、一人ひとりの使い慣れたものや、神棚、仏壇が置かれ、その人らしく過ごせる部屋になっている。		